

<資料>

高校職業教育の学科多様化の様相

①理科教育及び産業教育審議会（理産審）は2月19日、「高等学校における今後の職業教育のあり方について」の答申を文相に提出した。答申の一つの特徴は、技術革新や社会的需要の変化等に対応するために、新たに、電子機械科を設けることを提唱しているほか、情報技術科と情報処理科の両方にまたがる内容を教育する学科、国際経済科、農業経済科などのように、農・工・商等の従来の学科区分を超えた学科の新設を検討すべきだとしている点にある。福祉科のような学科の新設も考えられるとしている。答申はまた、学校・学科間の連携を強めるほか、専修学校との連携も考えるべきだとしている。現行法では、専修学校と連携できるのは定時制・通信制だけであるが、教育課程のなかに「課題研究」（仮称）のような領域を新設すれば、多様な実践ができるだけでなく、全日制と専修学校との連携も可能になる、といている。ひと口に言えば、答申は、高校職業教育の新たな多様化を推奨しているのである。

検討すべき問題は多いが、ここでは、職業学科の種類の多様化の推移を簡単に整理しておこう。

②高校に設けられている学科の種類数を、学科の名称によって整理したものを表にしめした。名称が違えば違った学科として扱ってある。1966年以前のデータは見当たらないように思われる。

高校教育の多様化に拍車をかけた中教審答申（「後期中等教育の拡充整備について」）が出された1966年には、高校の学科の種類は226種（うち職業学科218種）に達していた。その後も新種の学科はふえ続け、1974年には277種（職業学科は257種）となった。ところが70年代に入ると、多様化政策のもたらす

矛盾と困難が露呈しはじめ、僅かずつではあるが減少の傾向を見せ始め、1978年には251種（職業学科では232種）まで低下した。とくに工業科では、多様化の度合いが著しかっただけに、減少の度合いも顕著だった。

ところが、1979年以降、学科の種類は再び増加し始めている。今回の理産審答申はこの傾向を一層助長しようとしているのである。

次に学科別にやや詳しく調べてみよう。

③学科の種類が1966年以来ほぼ一貫して増加し続けているのは、農業科と「その他」つまり職業教育以外の学科である。

農業科の学科数を1966年と1983年で比較してみると以下の如くである。①農業792→392、②生活273→225、③園芸156→203、④畜産128→103、⑤農業土木86→92、⑥林業83→72、⑦食品化学37→46。（学科数は学級数とは異なるが、趨勢を知る手がかりにはなる。）この間に、農業科全体の学科数は1735から1306に減少しているから、各学科が減少するのは当然である。このなかで、園芸、農業土木、食品化学の3学科はむしろふえていることが注目される。83年の⑧位は造園（33学科）であるが、これは66年には⑭位9学科だったのだから、7倍となったわけである。1983年現在、全国に1学科しか存在しない学科は43種にのぼる（分校を除いてある）。

「その他」の学科は、83年でみれば、①理数102、②音楽55、③英語32、④体育25、⑤美術12である。⑥位は芸術、保健体育、外国語であるが、各2学科しかない。その他の21種は、すべて1学科のみである。

④戦前、商業学校には学科区分がなかった。学科という考え方自体がなかったのであるから、多様化政策が商業科において矛盾と困難、教育現場の抵抗と反発をもたらしたのは、あ

る意味では当然であった。商業科全体の学科数は1966年の1,367学科から83年の1,405学科へと微増した。83年現在の学科の種類を学科数の多い順に掲げると、①商業1,119、②情報処理89、③事務58、④経理64、⑤営業24、⑥経営10、となる。このうち情報処理は70年に登場した学科で、今日なお増加の傾向にある。事務は69年に登場したが74年にピークの69学科となり、既に衰退し始めている。同様に経理（ピークは78年の75学科）、営業（ピークは78、79年の36学科）、経営（ピークは77年の16学科）も衰退し始めている。多様化政策の運命を象徴しているごとくに見える。なお83年現在商業には24種の学科があるが、このうち11種は全国に各1校しか存在していない。⑤工業科は、83年現在117種、全体で2,624学

科ある。学科の種類は72年にピーク（141種）となった後、漸減してきた。83年現在の学科の種類を学科数の多い順に掲げると、①機械662、②電気540、③建築280、④土木189、⑤工業化学180、⑥電子151、⑦自動車83、⑧インテリア53、⑨化学工学42、⑩デザイン36、⑪情報技術33、⑫繊維工学31、⑬設備工業27、⑭金属工業26、となる。66年と比較すると、上位3位の順位は不変で、土木と工業化学の順位は入れ替った。増加の著しい科は、71年に初登場したインテリア、70年に初登場した情報技術、66年に48学科だった自動車、66年に21学科だったデザインである。こうした増伸する学科には専修学校の学科に似たものが多いことには注目しておく必要がある。

（佐々木享・名古屋大学）

表 高等学校に設置されている学科の種類

年	普	農	工	商	水	家	看	その他	計(うち職業) 学科のみ
1966	1	51	131	12	13	10	1	7	226(218)
1967	1	54	134	14	14	13	1		(230)
1969	1	52	135	19	14	12	1	15	249(223)
1970	1	53	139	20	13	11	1	14	252(237)
71	1	59	133	22	13	14	1	14	256(241)
72	1	64	141	20	12	14	1	20	273(252)
73	1	66	140	21	14	15	1	19	277(257)
74	1	69	134	20	14	14	1	18	271(252)
75	1	67	128	20	14	15	1	19	265(245)
76	1	70	120	21	13	16	1	18	260(241)
77	1	69	121	19	13	15	1	18	257(238)
78	1	68	117	20	13	13	1	18	251(232)
79	1	69	117	21	14	14	1	20	257(238)
80	1	73	117	19	14	14	1	23	262(238)
81	1	76	116	19	14	13	1	26	266(239)
82	1	76	115	20	14	13	1	26	266(239)
1983	1	79	117	24	14	14	1	29	279(249)

『産業教育』誌に発表された文部省調査を整理したもの。